

E-5 近代都市中流住宅の住い方に関する研究

福岡教育大非常勤講師 ○久保加津代 九大 森下正代

福岡教育大 秋山晴子

目的 中廊下型・居間中心型住宅様式が展開されるようになった時期をとりあげ、都市中流住宅の住い方を考察する。木村^註によれば中廊下型・居間中心型住宅様式は昭和初期に融合し、新様式を生ずるといふ。本報では「ありたき」住宅様式が実生活のなかで定着しえなかった原因をあきらかにするためつぎの二点を考察する。①主婦層の住生活に対する関心を領域別・経年別に分析する。②主として公的空間の住い方をフラン・住意識の面から分析する。

方法 ①婦人雑誌「婦人え友」大正10年～昭和9年まで14年間分を直接分析の対象とし、昭和10年～19年のものと比較資料とする。②領域ごとの記事の分量を経年的に分析し、時代区分ごとの特色を把握する。③フラン採取可のものは各室の機能をF, D, R, P, Sに分け、それぞれの兼用度をチェックする。

結果 ①住生活に向けられた記事量は食・衣分野に比べて極めて少い。②住生活に関する記事量はしかも経年的に減少している。③住宅のフラン全体・住様式などと住生活の工夫・こつ・維持管理・衛生などと大別すると前者の割合は経年的に減少し、後者の割合が増加する。④ほとんどがF(family space)をもっているが大正期には洋風、昭和期に入ると和風のものが多い。⑤和・洋とも家族だんらんの機能のみに利用されているものは少く、洋風のものではR(reception space)と和風のものではP(private space)との兼用が目立つ。

註) 中廊下型・居間中心型住宅様式の史的変遷 木村徳国